

若すぎる妻、年上の愛人。
閉ざされた部屋の中で、
愛は発酵していく。

1992年カンヌ映画祭監督週間上映作品

ヤヌシュ・キユフスキ監督作品

ジュリー・デルピー

ランペール・ウィルソン

ハンナ・シグラ

製作:アルトゥール・ブラウナー/アンリ・ランジュ

脚本:イエジー・ヤニツキ/ヤヌシュ・キユフスキ

原作:イエジー・ヤニツキ

1992/ドイツ・フランス合作/カラー/ヒスタサイズ/

1時間56分/ドルビーステレオ **DD** **DOLBY STEREO**

配給: **GAGA** 株式会社・コミュニケーションズ

© 1992 CCC Filmkunst

彼女の存在



WARSAWA année 5703

他人の男女が織りなす 愛憎の密室劇。

物語 1943年、戦時下のワルシャワ。ユダヤ人居住区、ゲットーからの脱出を試み、一組の男女が地下の下水道へ向かっている。男——アレック、27歳。女——フリーダ、彼女は20歳にもなっていない。命がけの逃避行には、ある任務が託されていた。虐殺されたユダヤ人たちの取ったネガフィルムを、仲間のもとへ届けなければならない。フリーダを教会に残し、アレックは仲間のもとへ走る。ところが必死の思いで目的のアパートにたどり着くものの、頼みの友人はドイツ兵に連行された後であった。絶望の縁に立たされたアレックに声をかけたのは、そのアパートの住人、ステファニアだった。年は45歳くらいだが、まだ十分に魅力的でひとり暮らしの彼女は、今や唯一の頼みの綱である。そのことを敏感に察知した彼は、ステファニアとベッドをともにし、かくまってもらおう。翌日、アレックは「妹」もかくまってくれとステファニアに申し出る。快く承諾した彼女は自らフリーダを迎えにいく。実はアレックとフリーダは夫婦であったのだが、ふたりが助かるためにはこのことを絶対に知られてはならない。密室と化したアパートの部屋で、三人の奇妙な共同生活が始まった。フリーダは自分の夫が中年の愛人と関係を続けるさまを目の当たりにしながらじっと耐えなければならない。

一方若い情夫を得たステファニアは女の喜びに満ちた生活を楽しんでいた。寛容な態度で接するステファニア。刺すような眼差しでステファニアに嫉妬の念を燃やすフリーダ。いつまでもこのような状態が続くはずもなかった。ついにアレックが選択を迫られる日がやってきた。ただ今となっては何もかもが手遅れになっていると知りながら……。

この物語は、下水道によって、私たちが幻とも思えるような愛の迷宮へいざなう。あたかもその出入口が、アパートの部屋に通じているかのようでもある。ゲットーを隔離された空間と解釈すれば、その外にありながら、この部屋はまた別のゲットーを作り出している。夜、アレックとステファニアが関係を続ける寝室も、狂気を帯びはじめたフリーダが閉じ込められたバスルームも、ゲットーと化していく。唯一外界と接触できたステファニアも病にたおれて外出不能になり、この部屋自体が物理的にも心理的にも、閉塞された世界となっていく。

迷い込んだ、 愛の迷宮。

ふたりの女と、 男の葛藤。

■国際的に活躍する、
ヨーロッパ実力派キャストの顔合わせ。



「彼女」= 嫉妬。

【フリーダの場合】
目の前で夫と愛を重ねる「ステファニア」

●両親とも役者という環境に育った彼女は、ゴダールに見いだされ、カラクスの「汚れた血」、シュレンドルフの「ボイジャー」(共演：サム・シェパード)と話題作に次々と起用され、その活躍は仏映画界にとどまらない。天使のような美貌と、永遠の少女性で見る者を虜にする彼女は本作でもその魅力を遺憾なく発揮している。



「彼女」= 凶器。

【ステファニアの場合】
年若い恋人との関係を、刺すようなまなざしで見つめる「フリーダ」

●ファスビンダー監督との出会いで、ニュージャーマンシネマを代表する女優として脚光を浴び、M・フェレーリの「ビエラ 愛の遍歴」でカンヌ映画祭主演女優賞を受賞したシグラは、文字どおりヨーロッパの映画界を代表する大女優といえる。独特の硬質とも思えるセックスアピールは、「ステファニア」のイメージと一致して、堂々たる存在感を醸しだしている。



「彼女」= 背信。

【アレックの場合】
年上の愛人「ステファニア」
若き妻「フリーダ」

●名優ジュルジュ・ウィルソン(「かくも長き不在」)の息子として生まれ、自らも同じ道に進んだランベールは、「ジュリア」(主演：ジェーン・フォンダ)でデビューし、その後も仏映画のみならず、ジョディ・フォスター(「他人の血」)やブルック・シールズ(「サハラ」)とハリウッド作品でも共演している。しかし近年は、A・スラウスキー、P・グリーンナウェイ、A・ワイタ監督作品などで、その端正な容貌とカリスマ性を十分に生かした作品にのみ出演していて、本作品では母性を求める本能と、父性の間で揺れるアレックを、繊細な演技で見事に演じている。

彼女の 存在

WARSAWA année 5703

【スタッフ】
監督……………ヤヌシュ・キユフスキ
製作・アルトゥール・ブラウナー/アンリ・ランジュ
【キャスト】
フリーダ……………ジュリー・デルピー
ステファニア……………ハンナ・シグラ
アレック……………ランベール・ウィルソン
■製作国……………ドイツ/フランス合作(仏語)
■製作年……………1992年
■製作・Molecule(仏)/CCC Filmkunst(独)
■配給……………GAGA 株式会社・コミュニケーションズ
カラー作品/ビスタサイズ/ドルビーステレオ/116分
1992年カンヌ映画祭監督週間上映作品
© 1992 CCC Filmkunst